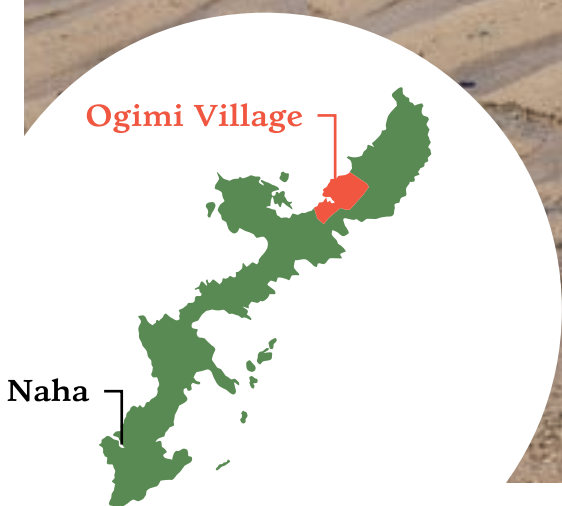


沖縄県

ば しょう ふ の 里 ・ おお ぎ み 大宜味村

The Village of BASHOFU



Ogimi Village

Naha

Okinawa

ねろめ 撮影：根路銘海岸

*沖縄本島の略地図です

Ogimi Village



01

バナナの仲間で作る布・芭蕉布 Q&A

ばしょうふ

04

芭蕉布が生まれるまで



06



芭蕉布つくりまSHOW!

09

聞かせて! 芭蕉布づくり

写真家・金サジさんが語る「喜如嘉まつり」の魅力!

きじょか



10

大宜味村で芭蕉布と出会おう!

芭蕉布の里

大宜味村をふるさと納税で応援!



応援したい自治体への寄附を通して、税金の還付、控除が受けられる(※1)制度が「ふるさと納税」。大宜味村では、名産品のシークワサーやマンゴー、工芸品をはじめ多彩な返礼品をそろえてご寄附をお待ちしております。返礼品が探しやすい特設サイトにてご検討ください!

大宜味村ふるさと納税特設サイトはコチラ

<https://furusato-ogimi.jp/>



マンゴー!!



シークワサー!



多彩な返礼品をそろえてお待ちしております!!

大宜味村ふるさと納税特設サイト



CLICK!

※1 適用には諸条件があります。

詳細をご確認のうえお申込みください

知ってる？バナナの仲間で作る布・芭蕉布 Q&A

「芭蕉布」という布の名前を聞いたことはありますか？畑で育てた糸芭蕉いとばしやうを収穫し、糸づくりから織って仕上げるまでの全工程を、電気機器を使わず手づくりする自然布です。いまや希少となった芭蕉布の活用法や歴史背景をご紹介します！

Q. 芭蕉布って何に使われるの？

A. バッグから獅子舞ししまい(→P7)までさまざま！



Kimono

着物

和装用の高級生地として着物愛好家の憧れの存在。蝉せみの羽たとに喩えられるほど薄手で透け感が特長。(左上) 芭蕉布着物／工房風芋、(左下) くにぶ地花織芭蕉布着物、(右) アキファティ柄芭蕉布着物／大宜味村

Interior

インテリア



↑(左上から時計まわり) 芭蕉布へんとな工房辺土名と紅型工房ひがしやのタペストリー「流水に水鳥と草花文様」、芭蕉布工房うるくのコースター、金城由美子芭蕉布きんじやう工房のテーブルランナー／山原工芸店やんばるこうげいてん（グラス参考商品）



Accessory

ファッション雑貨

←(左上から時計まわり) 芭蕉布作家・森山富士子さんのカードケース／参考商品、「喜如嘉の芭蕉布」(→P3)の糸を用いてアトリエひと匙きしが制作したイヤリング、「喜如嘉の芭蕉布」や糸・繊維を使用したピアス、ブローチ、蝶ネクタイ／大宜味村立芭蕉布会館、喜如嘉区民の田仲和子さんが制作したミニバッグ／私物

Q. 芭蕉布の原料

糸芭蕉はバナナの仲間ってホント？



A. 本当◎

食用バナナがなる実芭蕉の葉や偽茎は、糸芭蕉のものと同様。糸芭蕉にもバナナのような実はありますが、大きな種がたくさんあり食べづらそう。また同じバショウ科に属する、花(姫)芭蕉という観賞用植物もあります。



糸芭蕉

(リュウキュウバショウ)

Musa balbisiana var. liukuensis

バショウ科バショウ属。一見すると木に見えるが草に分類される。幹のように見える部分は葉鞘と呼ばれる葉の付け根(基部)が巻き重なった偽茎(断面写真→P6)。一度実をつけると、じきに枯れる。食用バナナに似た果実がつくものの、種子がぎっしり詰まっているため食用には向かない。株を増やしたい場合は種子から育てることもできる。もっとも、土中の根茎より生える芽から株分けする方法が一般的である。繊維がとれるようになるまでに約3年かかる。

偽茎

Q. 芭蕉布は船乗りだった？

A. 福建省から貿易船で渡来したという説も！

琉球列島と福建省(略地図)



15～16世紀、芭蕉布づくりがスタート!?

古くから琉球列島の人々は苧麻などでできた服を着用していたようです。芭蕉布の起源については諸説ありますが、那覇港近くの久米村という集落に居住した貿易商人が持ち込んだのではという見解も。15～16世紀初頭頃、中国・福建から来たいわゆる“閩人”が、芭蕉布の原料である糸芭蕉や、織って布にする技術を琉球の人に伝えた可能性があります。

琉球王朝から徳川家康にもプレゼント！

芭蕉布文化は徐々に琉球王国全土に広まりました。17世紀初頭、薩摩藩の琉球侵攻後には、薩摩への貢納布に指定されます。琉球国王・尚寧が江戸幕府へ謁見する道中、駿府(現在の静岡県静岡市)で徳川家康に面会した際に芭蕉布50反を贈ったという記録も残っています。



(画像提供 那覇市歴史博物館) 那覇及久米村図/明治初年頃に撮影された写真資料

Q. なぜ大宜味村は“芭蕉布の里”なの？

A. 「喜如嘉の芭蕉布」ほか多くの芭蕉布がつくられているから！



芭蕉布の生産地として知られる喜如嘉地域に建てられたのが大宜味村立芭蕉布会館。館内では喜如嘉の芭蕉布保存会による従事者研修や芭蕉布の品質検査が行われています。

令和8(2026)年現在 芭蕉布の生産地(琉球列島のみ記載・略地図)

沖縄県北部・大宜味村と芭蕉布

大宜味村での芭蕉布生産の記録は明治26(1893)年までさかのぼります。はじめは自家用が中心でしたが、次第に生産量が増加。昭和15(1940)年には県の補助を受け、饒波、喜如嘉、謝名城の村内3地区に芭蕉布工場が設立されました。太平洋戦争によりそれらは閉鎖されたものの、終戦後、地域住民の奮闘が実を結び、喜如嘉区を軸に芭蕉布づくりが復興。現在では芭蕉布織物工房のほか、複数の工房、個人作家さんが大宜味村内を中心に村外や本州、海外でも芭蕉布づくりに取り組んでいます。

*右図に掲載していない琉球列島の地域でつくられている可能性もあります



喜如嘉の芭蕉布

琉球王国時代、芭蕉布は琉球各地でつくられていましたが、時代の流れや生活の変化で途絶えていきます。そんななか、大宜味村喜如嘉の女性たちは途絶えることなく共同作業でわざを守り伝えてきました。この「喜如嘉で伝わる“わざ”」が国の「重要無形文化財」に指定され、喜如嘉の芭蕉布保存会が“わざ”を守る「保持団体」として認定されています。また喜如嘉という地域の中で継承された伝統的な手わざによってつくられる芭蕉布は、経済産業大臣から伝統的工芸品に指定されています。

『芭蕉布物語』私版本の表紙
(画像提供: 日本民藝館)



大宜味村の工芸展「いぎみていぐま」

芭蕉布以外の工芸作家も多い大宜味村。大保ダム近くには県内でも珍しい登り窯・大宜味窯もあり、やちむんをはじめ木工、藍染めなど、さまざまな手仕事作家が日夜、制作に打ち込んでいます。そんな作家たちが一堂に集うのが、毎年春に開催される工芸市「いぎみていぐま」。イベント開始前から入場待ちの列ができるほどの大盛況。同会場内では大宜味村が所有する「喜如嘉の芭蕉布」着物の展示や羽織体験が実施されたり、地元芭蕉布作家さんの作品が展示販売されることも。開催時期や内容は毎年異なるため、最新情報は公式インスタグラム (@igimitiguma) でご確認ください！



令和7年に開催した「いぎみていぐま」開始前の出展作家たちのひとコマ

芭蕉布

が生まれるまで

畑仕事から繊維の収穫、糸づくり、染め織り、仕上げ作業まで、かなりの時間と手間がかかる芭蕉布制作。全工程、一朝一夕にはいかないけれど、だから追求したくなる！奥深〜い芭蕉布づくりを少しでも知りたいのぞいてみませんか？

※作業手順の一例です。一部の工程を省略して紹介しています

糸 芭蕉の栽培

うーとー
うーは
芋倒し・芋剥ぎ

うーだ
うーび
芋炊き・芋引き

うーう
チング巻き・芋績み



たて
糸

よこ
緯
糸

地 糸

撚り掛け

整 経

かすり
絁 糸

撚り掛け

整 経

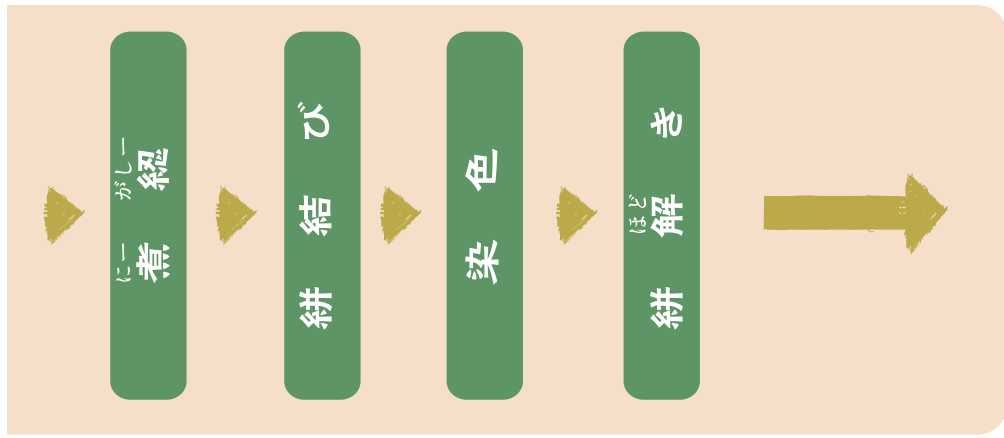
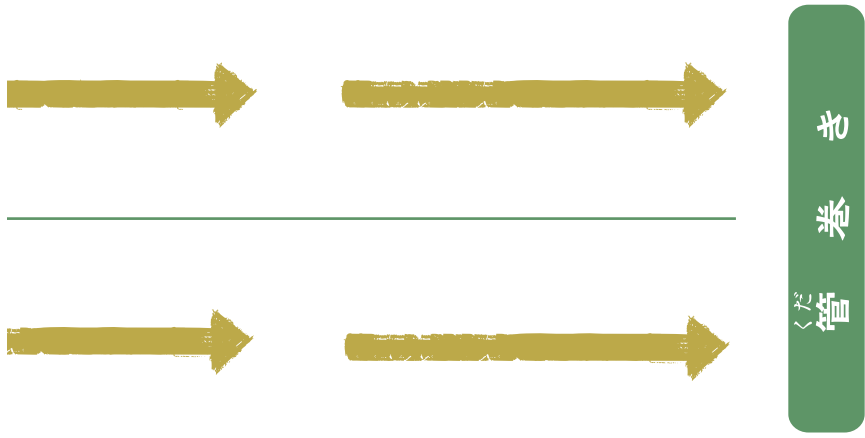
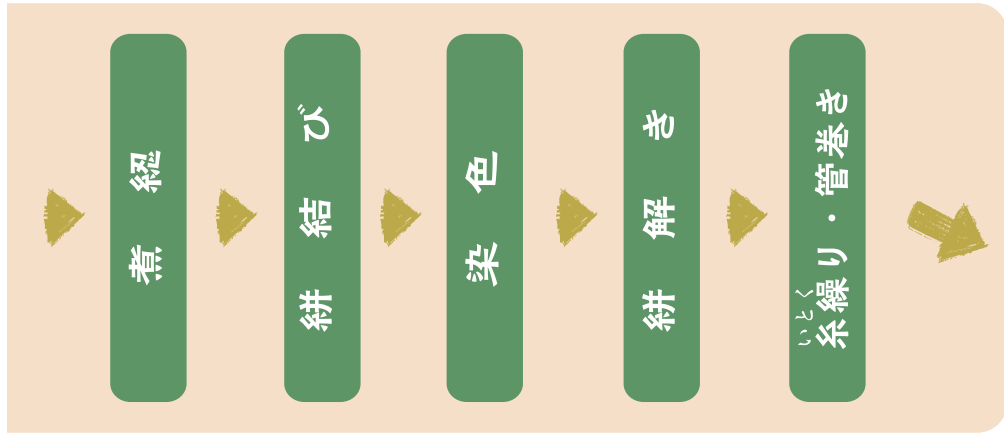
地 糸

撚り掛け

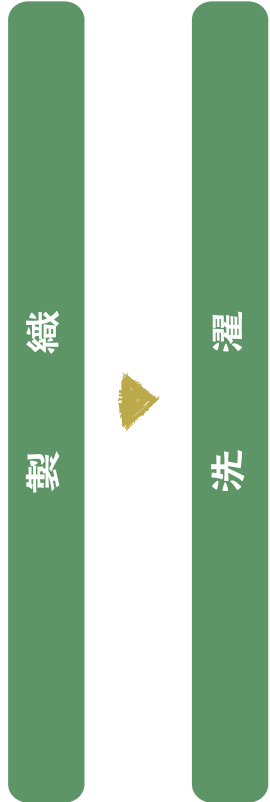
絁 糸

撚り掛け

整 経



仮 箒 通 し ～ 卷 き 取 り ～ 綜 統 通 し ～ 箒 通 し



芭蕉布つくりまSHOW!

特徴的な工程が続く芭蕉布づくり。ここでは一部の作業のみをご紹介します。どれも大変！だから楽しい!! 芭蕉布職人は今日も手を動かしています。

*本書では「喜如嘉の芭蕉布」(→P3)の製法をご紹介しますが、芭蕉布のつくり方や糸芭蕉の部位、道具などの呼称等は作家や地域によって異なります

もっと詳しく知るなら…

各工程の解説は大宜味村立芭蕉布会館で販売中の冊子「喜如嘉の芭蕉布」(喜如嘉の芭蕉布保存会)をご覧ください。



糸芭蕉の収穫 とうりし・とうりぎ

約2～3年間、手塩にかけた株を切り倒す!

大体11月～翌2月頃、冬に行われます。外皮が茶色く枯れた株を収穫。株を切り倒す「とうりし」の後は、葉鞘を1枚ずつ剥がす「とうりぎ」へ。剥がした葉鞘は表側と裏側、2枚に裂きます。布用の繊維がとれるのは表側から。

1. 2. 切り倒した株の葉鞘にナイフで切り込みを入れて(口割)から1枚ずつ剥がす。切り込みから表側と裏側の2枚に剥ぐ。
3. 炊きやすいように束状にまとめる
4. 部位ごとに分けたとうり(ここでは繊維がとれる葉鞘のこと。抽出後の糸芭蕉繊維の呼び名でもある)。左からウワーハー、ナハワー、ナハグー、キヤギ



剥がしたとうりを4種類に分別

偽茎の外側から中心部にいくほど細かい繊維がとれます。とうりは繊維のしなやかさにより、ウワーハー、ナハワー、ナハグー、キヤギに分類。ウワーハーは小物用の生地に使うなど、つくりたいものに合った部位を用品います。



《糸芭蕉の偽茎の断面》



芭蕉紙づくりが卒業テスト!?

大宜味村で唯一の小学校、大宜味小学校では毎年、児童たちが卒業証書を手づくりしています。紙の原料にしているのはなんと糸芭蕉! 3日間もかけて、芭蕉紙を手すきで仕上げます。明るい色の芭蕉紙を目指して村の名産品、シークワサーの葉と枝も染色に使用。大宜味っ子たちは地域色たっぷりの卒業証書を自作して、晴れて卒業式を迎えることができます。(みんなそれぞれ個性的な仕上がりで全員、100点満点◎)



うーだ うーび 繊維をとりだす 苧炊き & 苧引き

決め手はエービ!? 長時間に及ぶ体力仕事

繊維をとりだしやすくするため、剥がした苧を煮る工程が「苧炊き」。木灰汁を入れた湯で、部位別に煮込みます。煮込みすぎると繊維が切れやすくなるため要注意! 煮込んだ苧は水洗いをしてから「苧引き」へ。エービ(写真上)と呼ばれる手づくりの竹バサミでしごき、繊維をとりだす作業です。上質な繊維を取獲できるかは、苧を炊くときのpH値や加熱時間のみならず、エービの出来栄によっても左右されます。



1

木灰汁を洗って水気を絞ろう

3



2



1. 苧の状態を見ながら加熱。炊く時間は毎回異なる
- 2,3. エービではさみ、茶色の不純物を除去。白っぽく輝く繊維が登場

↑ 体毛に糸芭蕉繊維を使用した獅子舞
(喜如嘉小学校獅子舞クラブ)

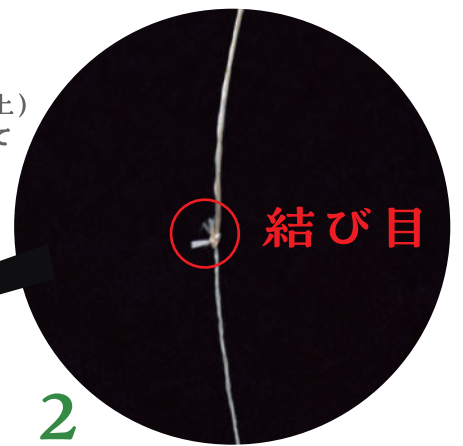
うーう 繊維を裂いて糸づくり 苧績み

きれいな芭蕉布は上質な糸から!

とりだした繊維を乾かしたら、指に巻きつけて球状に丸め、チング(写真上)と呼ばれる形にまとめます。このチングを水に浸して、繊維を柔らかくしてから行うのが「苧績み」、糸づくりの作業です。つくりたい布に適した細さに繊維を裂いたら、はた結びという結び方でつなぎます。糸の結び目が目立たないことが上質な芭蕉布の条件のひとつです。



1



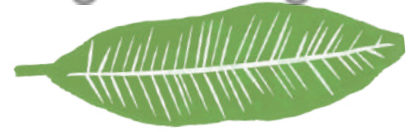
2



3

1. 績んだ糸はウンゾーキ(竹かご)へ
2. 他の糸に引っかけられないよう糸の結び目は小さくつくる
3. 苧績みの次は績んだ糸を竹管に巻く「管巻き」工程

“ごほうび”の工程 織り



芭蕉系のご機嫌取りつつ機を織る

長期間の準備を経て、いよいよ機織りへ！待ちに待った工程ですが、乾燥すると切れやすい芭蕉系で布を織るのは至難の業。梅雨など湿度の高い時季を選んだり、霧吹きで糸を湿らせながら織り進めます。



ユニークな絁の世界



ハナアーシ

漢字にすると「^{はな}花^{あし}合」。花柄を意味する喜如嘉の方言という説も。経緯絁



ジンダマバンジョー

商売繁盛を願う“^{ジン}銭^{ダマ}玉”柄と、大工の定規がモチーフの柄を組み合わせた経緯絁



スティチンファー

ソテツの葉をイメージした経緯絁の柄。上部の短い線はソテツの実を表す

※「喜如嘉の芭蕉布」で織られることが多い絁柄です

仕上げ作業も手間かけて！ 洗濯



芭蕉布の誕生まで残り10工程以上！

織りあがった芭蕉布は精練・仕上げ作業である「洗濯」へ。まずは水洗いして汚れを落とします。さらに木灰汁で煮たら、アルカリ性に傾いた布を、お粥を発酵させてつくるユナジ液に浸しましょう。ユナジ液で中和させたら軽く陰干しに。その後、洗って縮んだ布を既定の幅や長さに戻すため、「ちまんき※2」と呼ばれる手で引っ張る作業や、布の両端を持って数名で引き伸ばす「布引き」作業を行います。そして湯のみ茶碗で布をこすって風合いを向上させたら、アイロンをかけて出来上がり！お疲れ様でした。

1. お粥や米粉を発酵させたユナジ液
 2. 「ちまんき※2」作業では縮んだ布の幅を出すため、手で斜めに引きのばす
 3. 息を合わせて行う「布引き」。長尺の布は3人がかりの作業に
 4. 茶碗でこすって芋績み(→P7)でできた糸の結び目を目立たないようにする
- ※2「ちまんき」と言うことも



1



2



3



4

5 完成!



ジョートー
やっさー!

ちやわん
茶石宛でゴシゴシ!!

聞かせて！ 芭蕉布づくり

大宜味村へ来て芭蕉布の現場を体感したいなら、ココへ相談！

喜如嘉翔学校（体験メニュー）芋績み体験や糸芭蕉以外の草編みワークショップなど満載！

営業時間：応相談 ※予約受付は Instagram (@kijokasho_activity)

プロフィール欄に記載の専用サイトから。希望日の1週間前までに申込み 駐車場：有

NPO 法人おおぎみまるごとツーリズム協会 喜如嘉集落に伝わる芭蕉布文化をのぞき見！

代々、芭蕉布を織ってきた家庭を訪問。歴史ある芭蕉布の着物を見せてもらえるかも！?

※不定期催行のため1週間前までに要確認。少人数のみ対応 電話番号：0980-44-1960

メール：marutsu_okinawa@tmt.ne.jp

Active Okinawa 英語が苦手でも海外ゲストの案内はお任せ！バイリンガルのスタッフが同行

希望どりの旅を、言葉のストレスなく満喫できる。営業時間：要問合せ（8-19時）

電話番号：日本語 090-9820-4306、Eng 080-4131-0260 メール：hello@activeokinawa.com



写真家・金サジさんが語る

「喜如嘉まつり（※3）」の魅力！

芭蕉布の着物をまとった喜如嘉住民をモデルに作品を制作した金サジさん。滞在中に「喜如嘉まつり」に参加した感想を教えて！ ※3 隔年開催。地域で暮らす女性が芭蕉布などの着物姿で踊る「エイサー」「ウスデーク」が名物



「喜如嘉の文化をつなぐ意識に感動」 写真家 金サジ

地域の産業、文化、信仰を継続していくことは、今の社会情勢の中ではとても難しい課題です。そんななか、「喜如嘉まつり」はコロナ禍を経て、2023年にも無事開催することができました。まつりで踊っていた皆さんは、普段集落で出会う姿とは違い、少し緊張したような表情をしていて、それがとても美しいと感じました。本番だけでなく、夜に自主的に練習に参加する姿はもちろんのこと、まつりが終わってからの会議で、歌や踊りをもっと練習したい、あるいはテープに残っている歌をちゃんと教えてほしい、と発言していた参加者の姿に、私はとても感動しました。まつりに参加するひとりひとりが、喜如嘉の文化を自分たちの意思で大切に守っていこうとする意識が素晴らしく、それが踊り手たちの表情や踊りに現れているような気がしています。ですので演目、出店などはもちろんですが、なによりも喜如嘉の風習を未来につないでいこうとする参加者たちの意識が、この喜如嘉まつりの一番大きな魅力だと考えています。その意識が現れている出演者たちの美しい表情や仕草などを、是非、見て、感じてほしいと思います。

金サジ (キムサジ/ Kim Sajik)

〈Profile〉自身のコリアンディアスポラの身体的、精神的アイデンティティの「揺らぎ」をきっかけとして活動をはじめ。創作物語を演出写真の技法を用いて作品を制作。写真家として活動しながら、活動の一環として、韓国舞踊家、金一志の下に師事。韓国伝統芸能を学びながら、ディアスポラに代々継承されていく歴史・民族精神のトラウマから生まれる新たな可能性を探っている。株式会社赤々舎から写真集「物語」を令和4年に出版。平成28年度キヤノン写真新世紀グランプリ、令和3年度京都府文化賞奨励賞、令和5年度京都市芸術新人賞受賞。



参考文献（五十音順）

- 『沖縄植物図鑑』伊波善勇ほか（海洋博覧会記念公園管理財団/平成19年）、
『喜如嘉の芭蕉布』喜如嘉の芭蕉布保存会（喜如嘉の芭蕉布保存会）、
『喜如嘉の芭蕉布』喜如嘉の芭蕉布保存会（喜如嘉の芭蕉布保存会、大宜味村立芭蕉布会館）、
『芭蕉布人間国宝・平良敏子と喜如嘉の手仕事』（株式会社オフィスイーヨー/令和4年）、
『芭蕉布の今昔』喜如嘉の芭蕉布保存会（喜如嘉の芭蕉布保存会/平成30年）、『芭蕉布文化の起源を探る』K.ヘンドリックス（新星出版/令和4年）、
『人が伝える伝統の「わざ」重要無形文化財』（文化庁）、『みんなの文化財図鑑－無形文化財・民俗文化財編－』（沖縄県教育委員会/令和3年）、
『琉球弧・野山の花 from AMAMI』著者：片野田逸朗、監修：大野照好（南方新社/平成11年）

制作協力（五十音順、敬称略）

大宜味村観光協会、大宜味村教育委員会、喜如嘉の芭蕉布保存会、喜如嘉芭蕉布事業協同組合、金城由美子芭蕉布工房、芭蕉布織物工房、芭蕉布協働工房ばちばち、芭蕉布工房うるく、芭蕉布工房辺土名、山ブックス

発行/大宜味村 編集/大宜味村役場企画観光課 電話 0980-44-3007

印刷・製本/丸正印刷株式会社 カバー写真ほか/野村恵子 デザイン/Sunsign Design 令和8年3月発行

*掲載情報は取材時のもので、変更される場合があります。現況をご優先ください。掲載情報による損害等は弊村では補償しかねます。あらかじめご了承ください

大宜味村で芭蕉布と出会おう!



“芭蕉布の里” ならではの！最新情報に触れられる必訪スポット&連絡先です。

見る 買う



予約なしで芭蕉布づくりの見学 OK◎

大宜味村立芭蕉布会館

営業時間 10-17時 休日、旧盆、12/29-1/3

住所 沖縄県大宜味村字喜如嘉 454

駐車場有 TEL 0980-44-3033

昭和 61 年に建てられた芭蕉布制作従事者の合同作業や研修のための施設。2 階では芭蕉布づくりの作業が見学できる（見学不可の時季もあり）。「喜如嘉の芭蕉布」を用いた小物は 1 階で購入可能。※館内の写真撮影はお控えください

見る 買う



村内で芭蕉布着物が見られるのはココだけ!

大宜味村観光協会

営業時間 9-17時 休水(祝祭開館)

住所 沖縄県大宜味村字津波 95

駐車場有 TEL 0980-50-5707

「道の駅おおぎみ やんばるの森ビジターセンター」内。館内では芭蕉布作家・平良敏子氏監修の「喜如嘉の芭蕉布」着物を常設展示。ケース越しだが写真撮影 OK。閲覧用書籍やスタッフ手描きの解説資料、金サジ氏の作品もお見逃しなく。

買う



地元作家の芭蕉布アイテムをお土産に

山原工芸店

営業時間 10-17時 休火、水

住所 沖縄県大宜味村字喜如嘉 2083

駐車場有 TEL 0980-43-0898

沖縄本島北部で暮らす作家の作品を展示販売する喜如嘉翔学校の店。特に芭蕉布小物のラインナップが豊富。手に取りやすい価格帯の日用品から、贈答品にも適したアートピースまで、作家の個性が光る 1 点ものを探しに行こう。

見る



芭蕉布の貴重な資料を発掘出来る

大宜味村図書室

開館時間 10-12時、13-17時

休土・日・祝祭、他臨時休館日有

住所 沖縄県大宜味村字大兼久 157

駐車場有 TEL 0980-44-3009

旧村議会議事堂を再活用したスペースに約 7000 冊の本を収蔵。生前に平良敏子氏から寄贈された本を含め、芭蕉布関連の貴重な資料がそろいます。持ち出し不可の書籍も多いため注意。昭和 13 年頃に使用された織り道具の展示もあり。

- 喜如嘉の芭蕉布、Instagram @kijoka_bashofu
- 金城由美子芭蕉布工房 TEL 0980-44-2925
- 工房風芋 Instagram @bashofu_koubou_fuu

- 芭蕉布工房うるく Instagram @bashofu_uruku
- 芭蕉布協働工房ぱちぱち Instagram @bashofu88